

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of cesarean section and infectious outcomes among infants at 1 year of age: Logistic regression analysis using data of 104,065 records from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

帝王切開と子どもの1歳までの感染症罹患の関連

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLoS One

年: 2024

DOI: 10.1371/journal.pone.0298950

筆頭著者名: 前田 創

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

帝王切開により感染症への罹患が増加するという報告もありますが、一定の見解は得られていません。本研究は、帝王切開が1歳までの感染症罹患と関連するかについて評価することを目的としました。

方法:

エコチル調査に参加した母子のうち、74,477組を対象としました。分娩様式から帝王切開と経膈分娩に群別し、1歳時点での中枢神経感染症、中耳炎、上気道炎、下気道炎、胃腸炎、尿路感染症の有無を比較しました。解析には出産前後の母体因子、社会経済要因、出生後の子どもの成育環境因子の要因も考慮しました。

結果:

対象となった74,477人中13,477人(18.4%)が帝王切開、60,750人(81.6%)が経膈分娩でした。帝王切開で出生した子どもの1歳までの感染症罹患のオッズ比は、中枢神経感染症0.79(95%信頼区間0.46-1.35)、中耳炎1.06(0.99-1.12)、上気道炎1.01(0.97-1.06)、下気道炎1.06(0.98-1.15)、胃腸炎1.04(0.98-1.11)、尿路感染症1.17(0.95-1.45)でした。本研究では、帝王切開と1歳までの感染症との関連は見られませんでした。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、帝王切開と1歳までの中枢神経感染症、中耳炎、上気道炎、下気道炎、胃腸炎、尿路感染症への罹患との関連は見られませんでした。本研究の限界点として、(1)感染症の評価は参加者の自己申告による質問票を用いている、(2)ワクチン接種率が高い地域での研究である、(3)帝王切開において緊急と選択的の区別を行っていない、などが挙げられます。

結論:

大規模コホートに基づく本研究の結果、帝王切開と1歳までの中枢神経感染症、中耳炎、上気道炎、下気道炎、胃腸炎、尿路感染症に関連がないことが示唆されましたが、乳幼児の感染症発症における帝王切開の役割を評価するためにはさらなる研究が必要です。